

良いものを求めよう

越 川 弘 英

奨励者紹介[こしかわ・ひろひで]

同志社大学キリスト教文化センター教授

[研究テーマ]キリスト教の実践神学(礼拝、宣教、牧会)

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだけれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

(マタイによる福音書 7章7—12 節)

「求めよ、さらば与えられん」?

春学期チャペル・アワーの統一テーマとして、「求めなさい。そうすれば、与えられる」を掲げています。キリスト教文化センターの会議でこのテーマが決まったとき、私が最初に思い出したのはある結婚式のことでした。

数年前、同志社大学出身のカップルの結婚式を私が司式してクラーク記念館で行ったのですが、事前の打ち合わせの時に、そのカップルから式の中でこの聖書を読んで欲しいと言われました。

結婚式で読む聖書はだいたい決まっていて、「愛とは何か」とか「互いに愛しあいなさい」といったことについて記したものが多く、このカップルの注文はちょっと驚きました。ふたりは体育会の活動で知り合ったそうで、スポーツの世界で一生懸命やってきたようですが、これからの結婚生活においても、積極的にいろいろなことを求めながら、チャレンジしてがんばっていきたいからという趣旨のことであつたと覚えています。そういうふうにポジティブな価値観で歩んでいく人にとって、たしかにこの聖書の言葉は背中を押してくれる感じの言葉と言えるでしょう。

スポーツといえば、最近、水泳の池江璃花子(いけえ・りかこ)さんが白血病を克服してカムバックしたニュースや大相撲の照ノ富士関が序二段にまで転落していたのがついに大関に復帰したニュースには驚かされました。すごいなあと思うとともに、まさに「求めなさい。そうすれば、与えられる」の典型みたいな話だなあとも思いました。

とはいえ、「求めれば」誰もがオリンピック選手になれるわけでもなければ大関になれるわけでもありません。がんばったけれどカムバックできなかった人や途中で諦めたという人もいます。そういう意味では、今回の『チャペル・アワー案内』の表紙に私が「解説」として書かせてもらったように、この言葉は、ある意味、「なんとも無責任で楽天的な言葉」にも聞こえます。

何を求めるのか

「求めなさい」という言葉と一体となっているのは、「何を」という言葉です。「何を求めるのか」「何を願うのか」ということです。

答えを先取りして言えば、それが今日の奨励題の「良いものを求めよう」ということになるわけですが、先ほどお読みいただいた聖書の続きでは、「パンを欲しがらる子供」「魚を欲しがらる子供」が出てきます。素朴で即物的な願いですが、たしかに人間が生きていくときに必要不可欠なものにちがひありません。パンは良いものです。たしかに人はパンだけで生きるわけではないのですが、パンなしで生きるわけにもいきません。イエスという人はその意味でリアリストです。

さてその次が問題です。「衣食足りて礼節を知る」ということわざがありますが、パンの次に私たちが求めるものは何でしょうか。

もしも「あなたの希望をひとつだけ聞いてあげよう」とか「3つだけ願いをかなえてあげよう」と言われたらどうしますか。こういう怪しげな約束をテーマにしたお話が世界中にたくさんあります。そして、そのほとんどすべては失敗したり、悲劇を生んだり、せいぜい元の木阿弥に終わるというのは、皆さんもご承知のとおりのお約束ごとです。

ギリシア神話の中に、ある王様が自分の触るものすべてを黄金に変える力を願い求めて手に入れたという話があります。ところがそのために食べ物までもが金に変わってしまい飢え死にしそうになるという話です。

ある魔法使いの弟子は水を汲む仕事に飽き飽きしてしまい、その仕事から解放されることを願って、ホウキに魔法をかけて自分の代わりに働かせます。ところが魔法をストップさせる呪文を知らなかったために、ついに家の中が水浸しになってしまいました。

また古典的なミステリーとして知られている「猿の手」というけっこう怖い小説があります。ある夫婦がミイラになった猿の手を手に入れます。それは3つの願いを叶えてくれるというのです。たしかに夫婦の願いは3つも実現するのですが、とんでもない悲劇で終わる話です。興味のある人は自分で調べてください。

こうした話はいずれも人間の中に私たち自身でさえ気づかない愚かさや弱さがあることを気づかせようとしているのです。私たちは何が「良いもの」なのか、実はよく分かっていないということに警告を発しています。黄金やお金を拝んでいる王様、技術や効率が万能であるかのように勘違いしている魔法使いの弟子。そういった人々は、今でも私たちのすぐそばにたくさんいるではありませんか。

求めたものはちがったが

さてしかし、「求めなさい。そうすれば、与えられる」という言葉の意味を、これらの話とは正反対の方向から教えてくれる物語や言葉もたくさんあります。そうしたもののひとつとして、しばしば引用される、次のような詩があります。

大事をなそうとして

力を与えてほしいと神に求めたのに

慎み深く従順であるようにと

弱さを授かった

より偉大なことができるように
健康を求めたのに
より良きことができるようにと
病弱を与えられた

幸せになろうとして
富を求めたのに
賢明であるようにと
貧困を授かった

世の人々の賞賛を得ようとして
権力を求めたのに
神の前にひざまずくようにと
弱さを授かった

人生を享楽しようと
あらゆるものを求めたのに
あらゆることを喜べるようにと
生命を授かった

求めたものは一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞きとどけられた
神の意にそわぬ者であるにかかわらず
心の中の言い表せない祈りはすべてかなえられた
私はあらゆる人の中でもっとも豊かに祝福されたのだ
(山川千秋・穆子 『死は「終り」ではない: 山川千秋・ガンとの闘い180日』 文藝春秋 1989年 70—72 頁)

作者はアメリカ人のようですがよく分かりません。初めてこの詩に出会ったときに、私は「視点を変える」ということが思い浮かびました。ことに、「求めたものは一つとして与えられなかったが／願いはすべて聞きとどけられた」という一節は、今日の聖書箇所を理解する上でもとても示唆的な文章であり、深い知恵に満ちた言葉だと思います。

こういう視点から、「求めなさい。そうすれば、与えられる」という言葉を読みなおすとすれば、神さまは必ず最後にあなたにとっていちばん良いものを与えてくださるのだということであり、神さまは私たちの思い

もよらないかたちで私たちの願いに応えてくださるのだということになるのだらうと思います。今日の聖書箇所続きで、イエス・キリストが、「あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」と言っているのも、そういうことに繋がっているのでしょう。

「良いもの」は「良い方」のもとから来る。神のもとから来る。だから、何よりも先に神を求めなさいということが、結論ということになるのです。「良い方」が「良いもの」を与えてくださる。それがあなたの願ったとおりのものであるかどうかは分からないけれども、私たちが願うよりもさらに「良いもの」を神は与えてくださるという信仰の告白が、この「求めなさい。そうすれば、与えられる」という勧めの中に込められているのです。

よけいな付録

ということで、今日のメッセージを終わっても良いのですが、ひとつだけよけいなことを付け加えておきます。

とくに若い学生の皆さんには、今申しあげたような結論に達する前に、いろいろ願い求めたり、チャレンジしてみたり、試行錯誤してみることは、決して無駄ではないですよということを言っておきたいと思います。

今日最初にお話したカップルも、池江さんも照ノ富士関も、(少し意地悪な言い方をすれば)この後どうなるかはだれにもわかりません。しかし、いろいろ求めて、いろいろがんばってみて、うまくいくこともあればいかないこともあるのだらうと思います。

ヘンなことを言うようですが、あんまり若い頃から達観して、悟り澄まして、結論は分かったみたいな顔をしていない方がいいのです。すべてを黄金に変える指を持つ王様になることも、間の抜けた魔法使いになってみることも、他の人々をひどい目に遭わせることがないなら、なってみたらいいのです。「求めたものは一つとして与えられなかったが／願いはすべて聞きとどけられた」なんてつぶやくのは、60歳か70歳か、80歳を過ぎた頃でも十分間に合います。聖書の中には、良くも悪くもいろいろなことを願い求めて生きた様々な人間が出てきます。いろいろ求めてみて、願ってみて、最後に行き着くところまで行くことになるのでしょう。聖書の神さまはそうした人間ひとりひとりと関わりながら、ともかく面倒を見てくれています。最後まで責任を持って付き合ってくださいというのが、この神さまのありがたいところです。

長いコロナ禍の日々の中で、心も身体も萎縮してしまっているようなところがありますが、とりあえず、今日1日、この1週間、皆さんが元気に過ごせることを神さまに祈り求めたいと思います。